編集.発行：
飯能消防団広報委員会

飯能

かわらばん

“さらなる50周年へ向けて”

平成10年度
第5号

特集 消防団今昔物語

⊙おもしろ雑学 & むかし昔のお話

⊙消防団ニュース・活性化委員会報告 etc.

飯能消防団今昔物語

消防団創世記

昭和二十二年に新憲法が施行され、消防団令が公布されました。同年八月一日、それまでの警防団を解散、飯能消防団として新たなる出発の日となったのです。

飯能市に消防署が設置されたのは、消防団の発足から十二年後の昭和三十四年でした。消防団が消防署の誕生の元となる例は、全国でもまれな事だそうです。

新生消防団

現在の消防団は、団本部以下、十個分団（三七五名）で構成され、車両や装備も年々最新の物に更新されています。火災や災害の出動だけでなく前回の「かわらばん」で、お知らせしたように消防団を活性化するための委員会を創りこれも訓練の一環と考え、楽しく？活動しています。

伝統を守りつつ、新しい物を取り入れ、明るく楽しく、それが今の飯能消防団です。

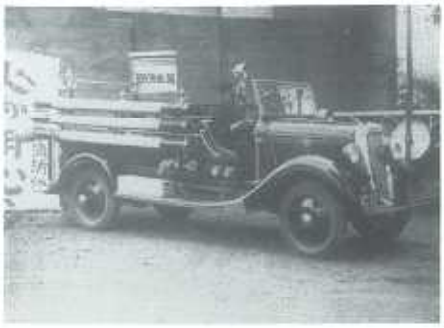
二十一世紀の消防団

未来の消防団は、常備消防の充実で消防団の役割も大きく変わると考えられます。災害現場では消防団がリーダーとなり地域住民と協力し「自分の街は、自分で守る」の精神で、きめ細かい防災活動をしていく事になると思います。

今、これを読んでいる十八歳以上の貴方、消防団に入ってみませんか？　え！女性でも入団出来るか？ですって、希望者が多ければ団長も考えると思います。消防団の未来を創るのは『あなた』です。

『消防車両』の今昔

昭和一〇年十一月飯能町はポンプ自動車を初めて購入する。一九三五年型フォードV8型トラックシャーシー高圧タービンポンプである。



この一九三五年型フォード消防車（三六〇〇CC）は、タクシーの改造車だった。

昭和一〇年から三十三年まで使用したが、整備を繰り返した（横浜のタクシー会社から部品を購入）ので乗り心地はよかった。

昭和二十五年十一月小型ポンプ自動車を二台（栃木県鹿沼市消防団が使用中の中古車）を購入する。

この二台の中古の消防自動車は、かなりいたんだものであった。放り出されるようで乗るのが怖かった。

昭和三十三年一〇月埼玉県では初のソフト吸管を備えた五八年型いすゞ一三〇馬力二段バランスタービン車を配属。

現在の消防団車両は、山間部の分団に配属され、中心的役割を担っています。

積載車は、ポンプを積んだまま放水でき、持ち運びも可能な新型が配属されています。

お出さまで五十周年

『消防操法』の今昔

操法とは、消火活動の際のポンプ設置から放水までの操作方法の事です。

消防団活動での操法といえば、操法競技大会と結び付きます。ですから操法の歴史といえば、第一番目に操法大会となります。次に思い出の多いのが特別点検での放水訓練になるのでしょうか。

今回、何人かの方にお話しを聞いて、操法の歴史を少しひもといて見ましょう。

まず昭和四十年代の二人のお話を伺います。

私にとって操法大会の思い出は、指揮者として出場した時「火点は前方の赤旗！」と発声すべきところを「火点は前方の赤提灯！」と言ってしまい、〝メタメタ〟の練習となってしまったことがありました。（本番は、バッチリ出来ました。）

当時は、自動販売機もなく予算も少なく練習後の飲み物は、井戸水でありましたが、真夏日の練習の時、近所の方が氷割をコップに入れサイダーを差し入れて頂き、一気に飲み干した時のサイダーの甘い〝ヒャッコイ味〟がいまでも忘れられません。

私が今でも思い出すのは、十二月一日の点検の日です。「放水初め」の号令と赤旗が上がり、どのポンプよりも早く放水を開始したが、それも束の間エンジンストップ！

今迄、幾多の山火事などで活躍したポンプ、どうしたことか何度回しても「ブーともスーとも」音がしない、「放水止め」ホースを撤収して引上げる様は、みじめでした。

次は現代、最新版は今年度、県大会で見事に「優勝」した、九分団の方です。

「前回から、水を出す操法になり、より実戦的な方法が望まれる様になった事を実感しました。

それにしても、初めて出場した県大会。各地区から選ばれた大勢の団員の見守る中での競技で大変緊張しました。そして優勝という得難い経験をさせて頂きました。ありがとうございました。」

以上、新田の方々よりお話しを伺いましたが、少しは、消防操法について御理解頂けましたでしょうか。

※おもしろ雑学※

◎昔の屋敷は、樫の木を家の周りに植え火災を防いだ。また、茅葺き屋根などが多かったころは、はしごと、箒をほうきの様にした物が用意してあり、飛び火（火の粉）をそれで払い延焼を防いだそうだ。

＊燃えにくい木

カシ、ブナ、ナラ、栗など

＊燃えやすい木

松、樅（もみ）、杉、檜、唐松など

◎纏（まとい）とは

戦国時代は、敵、味方の目印にするために用いた。のぼりや馬印。大将の傍に立てて兵隊の所在を示した。江戸時代になるともっぱら火消し組の目印となり、消し口の道筋に立った。

むかし昔のお話

◎飯能から浦和の消防本部まで、信号・車等少ない時代だったので、消防自動車で三十五分で着いた。

◎昭和二十年代の自動車部には豪傑が多く消防自動車の操縦訓練を名目に伊東温泉まで遠乗り（？）したり、某分団は、自動車が配置され、うれしさのあまり試乗で、大磯ロングビーチまで出掛け「ご苦労さまです」と挨拶され面映ゆかった。

◎ある分団は、料亭に借金のカタに分団旗を預けたこともあったそうだ。

また、料亭に分団旗を置き忘れたこともあった。

◎昭和二十年代から三十年代の初めころ、消火作業の時消防団員は、上を向いて活動するので、溜め池や便所に落ちることがしばしばあった。

◎消防団の行事のある日は、南裏（現在の仲町）の飲み屋さんは、消防団員であふれていたらしい。

12月1日㈫午前8時より防災センターで飯能消防団特別点検が行われます。ぜひご来場ください。

心機一転

飯能消防団
団長　金子堅造

昨年、結成五十年を迎えた飯能消防団は、本年、五十周年記念事業を、行ないました。

この場をお借り致しまして皆様に、感謝申し上げます。

事業として消防団市中パレード並びに、記念式典を開催致しました。又「飯能消防団の五〇年」記念誌を刊行しました。発行に際しては、はるか遠く過ぎ去った時代まで、さかのぼり幾多の先輩が築いてくれた偉業を堀り起こし、資料として貴重な書が完成致しました。

ご参加、ご協力を頂きました

顧みますと戦後混迷の社会情勢から少しづつ立ち直りつつある昭和二十二年に地域の消防団として結成され、親しまれてまいりました。これを機に、さらに奮起し「災害のない飯能」と、果てしない目標に向かい明るい町づくりに邁進する所存です。今後共、よろしくお願い申し上げます。

消防団に入って

第一分団
宮崎好弘

飯能消防団に入団して半年が過ぎ、操法大会や防災訓練を経験して、団員としての責任感がでてきたところです。

入団して感じたのは、先輩団員の熱心さです。操法の練習では、仕事が終って疲れているはずなのに、きびきびとした動きに驚かされました。

災害現場で活動するには、日頃からの訓練が重要なことだと理解出来ました。市民の大切な生命、財産を守る為にこれからも、訓練を真剣に行なっていかなくてはと強く感じています。

消防団・活性化委員会・報告!!

◎ねるとん◎

♥ハッピーなお知らせ！

第一回「ねるとんパーティ」により、ついにカップルが誕生しました。

さる十月四日に第一分団団員の岩渕昌司さんが、御結婚されました。ねるとん企画第一号として、岩渕団員の門出を心より祝したいと思います。

♥末長くお幸せに♥

第二回の開催も「独身団員に吉報を！」のキャッチコピーで予定しております。

お楽しみに！

◎作　業　服◎

作業服委員会では、試行錯誤を重ねて、新しい作業服とヘルメットが、出来ました。

作業服の服地は、難燃素材を使用して「フレッシュ飯能消防団」に似合う配色、デザインで決まりました。

又、ヘルメットは安全・作業のしやすさを第一にグラスファイバー製を採用しましたレッドカラーで分団ネーム入りです。

これからも、かっこいい飯能消防団に御期待下さい。

編集後記　先日、息子の高校で応援団の演技発表会を見た。彼等は「規律・礼節・団結」の団則の下、愛校心の育成を目標に活動している。演技を見て鳥肌が立つ程感動し、目頭が熱くなった。我々消防団も「郷土を守り愛する心」で活動している。少し違うかもしれないが心の片隅にこんな蛮カラ必要かもしれない。

編集委員

副団長　加藤　潔
本部分団長　加藤　幸男
本部部長　小島　良造
本部班長　平沼　芳夫
第一分団　山影　昌之
第二分団　武居　芳明
第三分団　小川　勝
第四分団　須田　隆行
第五分団　小嶋　宏幸
第六分団　菊地　大吉
第七分団　関谷　幸夫
第八分団　関口　宏年
第九分団　浅見　有二
第十分団　田中　充宏

題字は吉田行男様にご協力いただきました。